

研究・調査報告書

報告書番号	担当
8	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名（原題／訳）	
<p>Ghrelin system in alcohol-dependent subjects: role of plasma ghrelin levels in alcohol drinking and craving. アルコール依存症者のグレリン系：アルコール摂取と欲求における血漿グレリンレベルの役割</p>	
執筆者	
Leggio L, Ferrulli A, Cardone S, Nesci A, Miceli A, Malandrino N, Capristo E, Canestrelli B, Monteleone P, Kenna GA, Swift RM, Addolorato G.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Addict Biol. 17(2):452-464 (2012)	
キーワード	
アルコール依存症、アルコール摂取、欲求ペプチド、グレリン、グレリン遺伝子多型	
要 旨	
<p>動物実験は腸-脳ペプチドのグレリンがアルコール依存症の神経生物機序で重要な役割を果たしていることを示唆している。ヒトでの研究では、グレリンレベルにアルコールが影響し、アルコール依存症でのグレリンレベルとアルコール欲求との間に相関があることを示している。本研究では2つの検証を行った。(1) アルコール依存症者での12週間の研究で、血漿グレリンレベルを4回 (T0:基礎値、T1:2週間目、T2:6週間目、T3:12週間目) 測定し、アルコール摂取と欲求 [Penn Alcohol Craving Score (PACS) と Obsessive Compulsive Drinking Scal (OCDS) で評価] との関連についての検討した。血清成長ホルモンレベルと栄養/代謝状態の評価も同時に行った。(2) アルコール依存症者でのグレリン遺伝子多型 (Arg51Gln と Leu72Met) について評価した。</p> <p>研究1の結果として、全被験者間でのグレリンレベルの有意な差異は認められなかったが、アルコール非禁断者と禁断者との間で有意な差異が見られた (12週間の観察で禁断者のグレリンレベルは上昇したが、非禁断者のグレリンレベルは低下した)。非禁断者でのグレリンレベルの低下は、グレリンレベルに対するアルコールの抑制作用が反映されている。グレリンレベルの基礎値 (T0での測定値) はアルコール欲求 (PACS および OCDS) と有意に正の相関が認められた (グレリンレベルが高いとアルコールへの欲求も強い)。研究2の結果では、アルコール依存症者で Leu72Met グレリン遺伝子多型の頻度が高かったが、健常対照者とアルコール依存症者との間に多型分布での差はなかった。</p> <p>本研究の結果は、グレリンはアルコール摂取や欲求のようなアルコール探索行動に影響していることを示唆している。グレリンレベルとアルコールへの欲求とが相関することから、グレリン系に対する拮抗処置はアルコール依存症治療の新しい有力な神経薬理的標的であると考えられる。</p>	